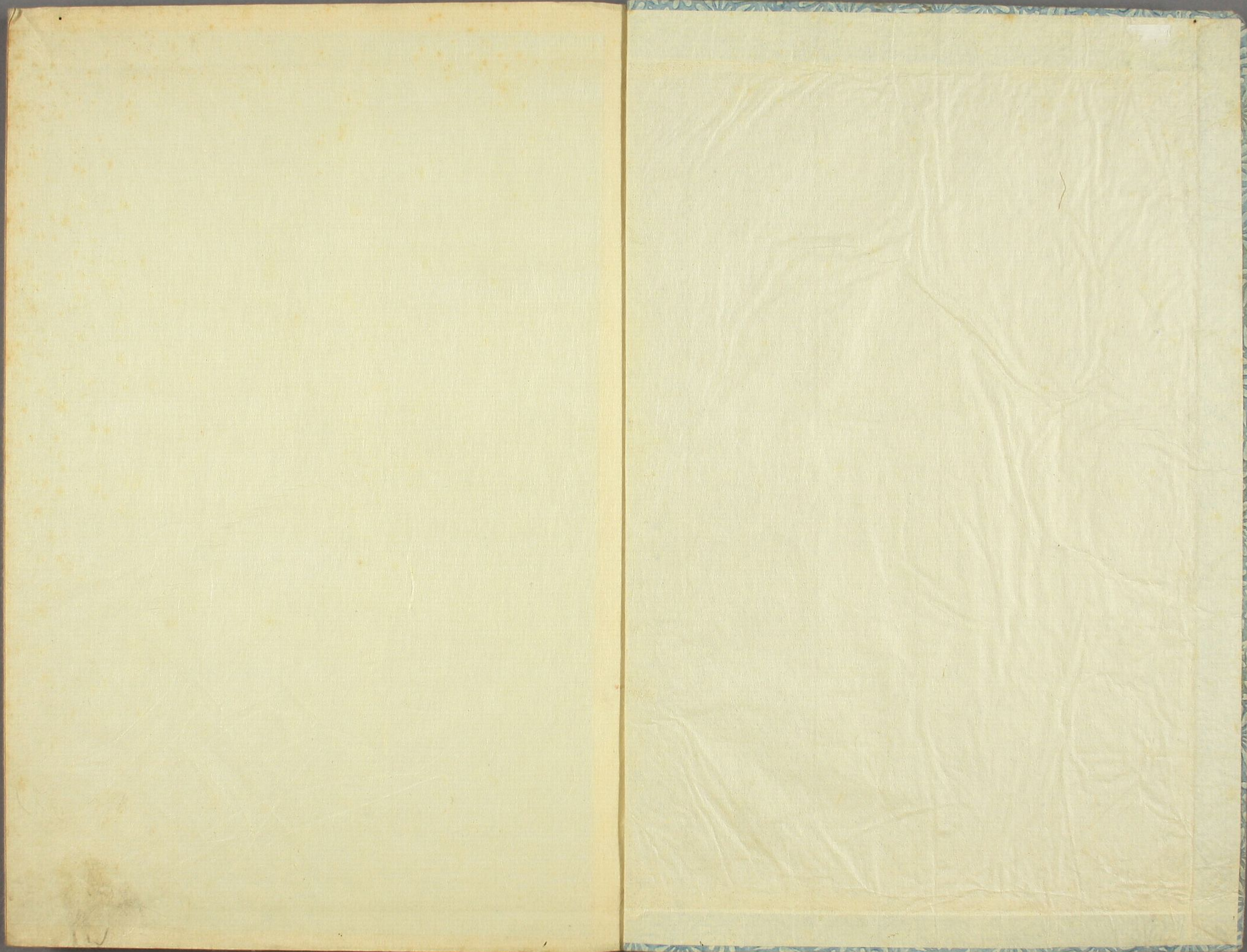




白虎地蔵  
—







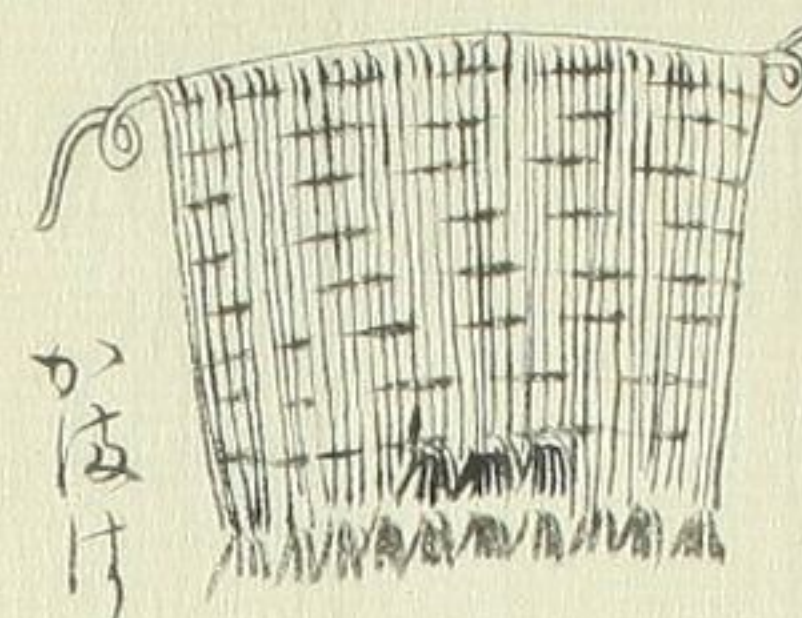




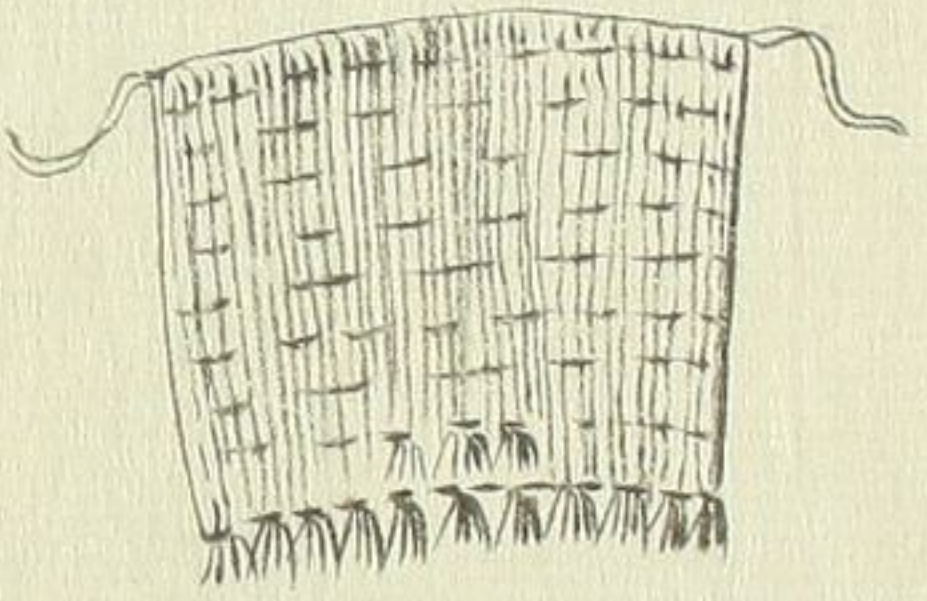
らるるからあつた露のよもふたは...  
 わくふと露をかく露のことありてまゝえん  
 ありてふくく日波はくくくくくくくくくく  
 とゆめふくくくくくくくくくくくくくく  
 枯生はくくくくくくくくくくくくくく  
 こらんをくくくくくく福嶋くくくくくく  
 物も葉は樹のくくくくくくくくくくく  
 くのくくくくくくくくくくくくくく  
 すとくくくくくくくくくくくくくく  
 枯生はくくくくくくくくくくくくくく  
 くれんくくくくくくくくくくくくくく

露のよもふたは...  
 わくふと露をかく露のことありてまゝえん  
 ありてふくく日波はくくくくくくくくくく  
 とゆめふくくくくくくくくくくくくくく  
 枯生はくくくくくくくくくくくくくく  
 こらんをくくくくくく福嶋くくくくくく  
 物も葉は樹のくくくくくくくくくくく  
 くのくくくくくくくくくくくくくく  
 すとくくくくくくくくくくくくくく  
 枯生はくくくくくくくくくくくくくく  
 くれんくくくくくくくくくくくくくく

江戸の物産図説... 馬乃り... 小は... つれて...



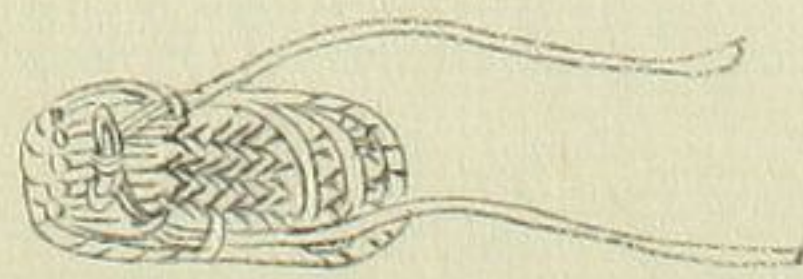
かばけ籠



丸籠

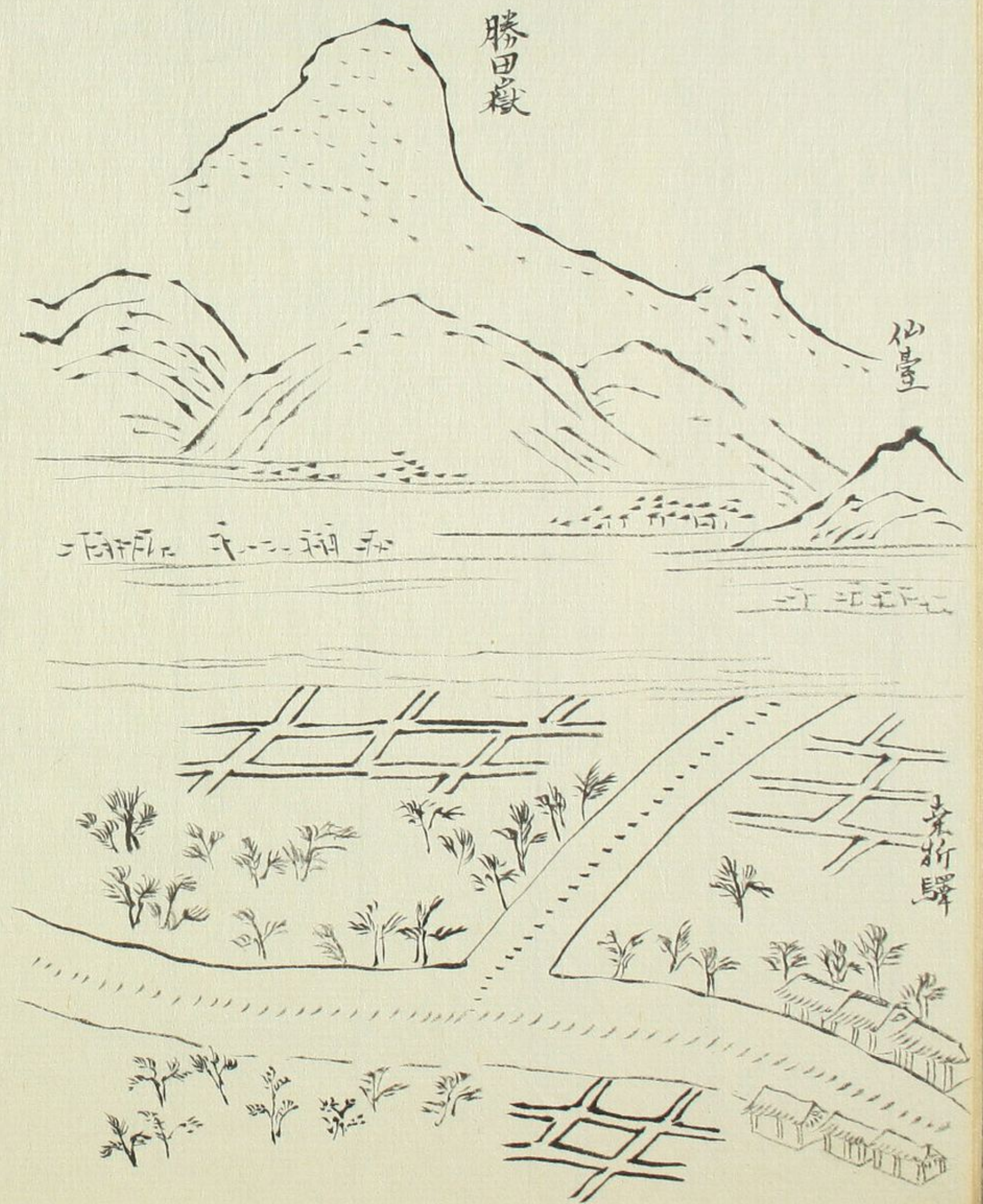
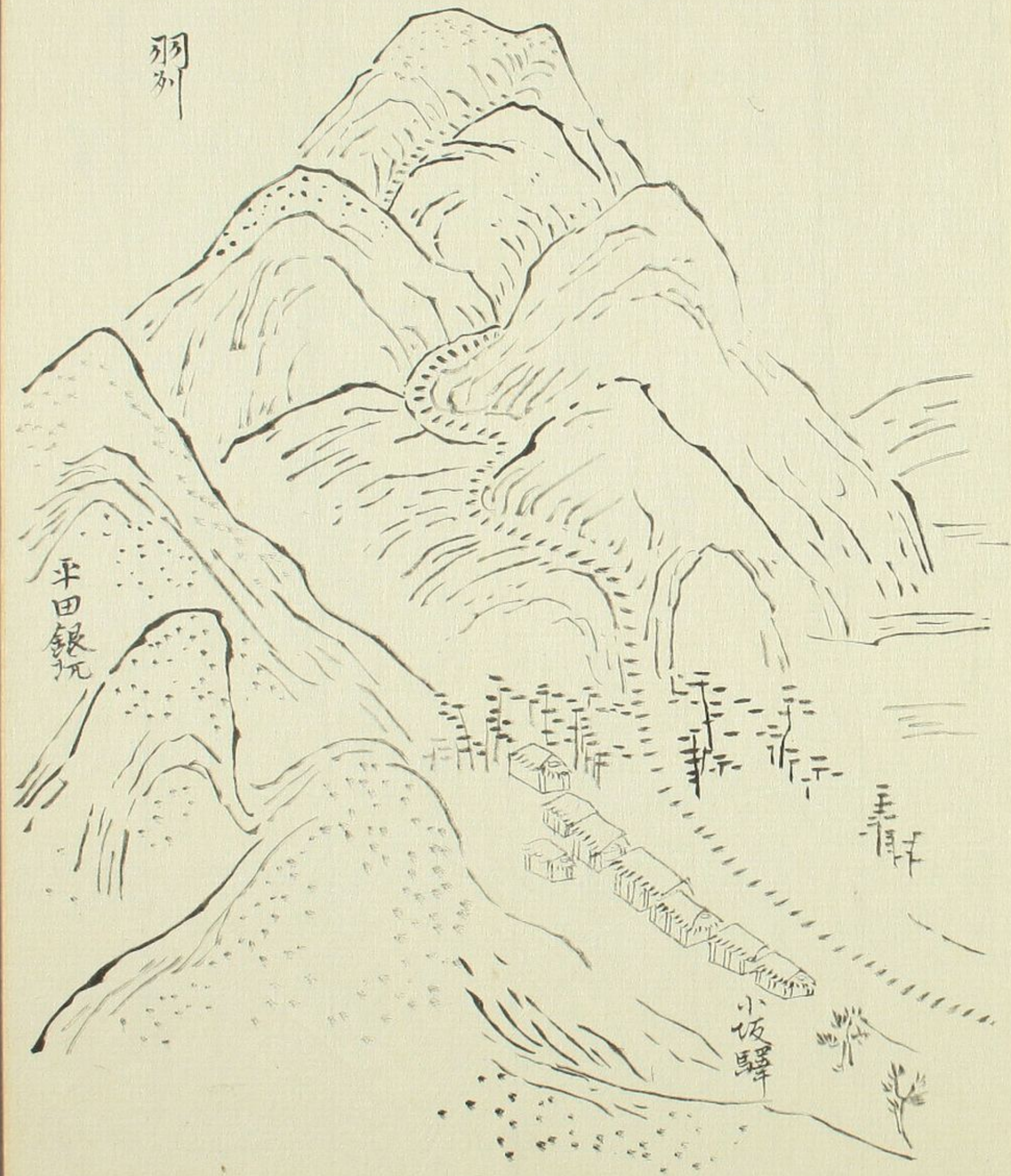


丸籠草鞋



脚へ纏て丸友... 江戸の物産図説...

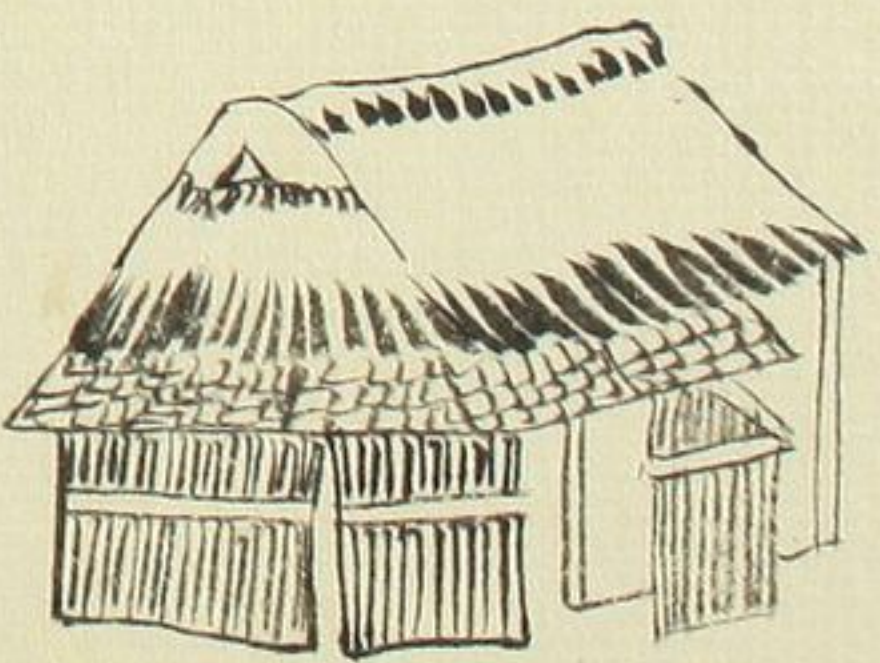
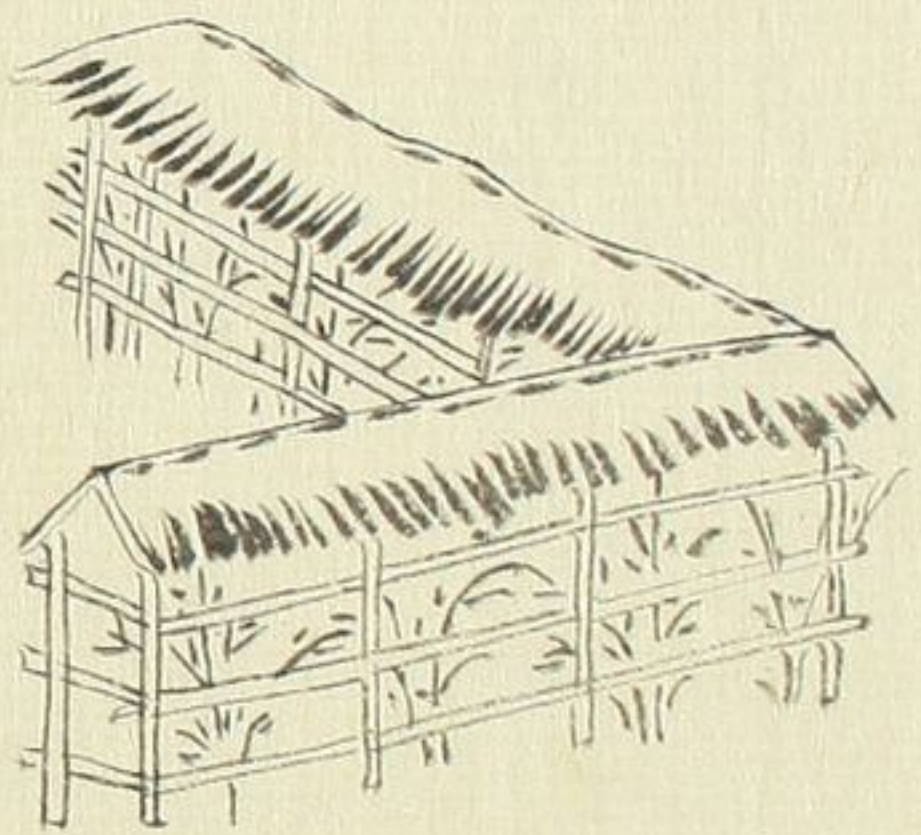
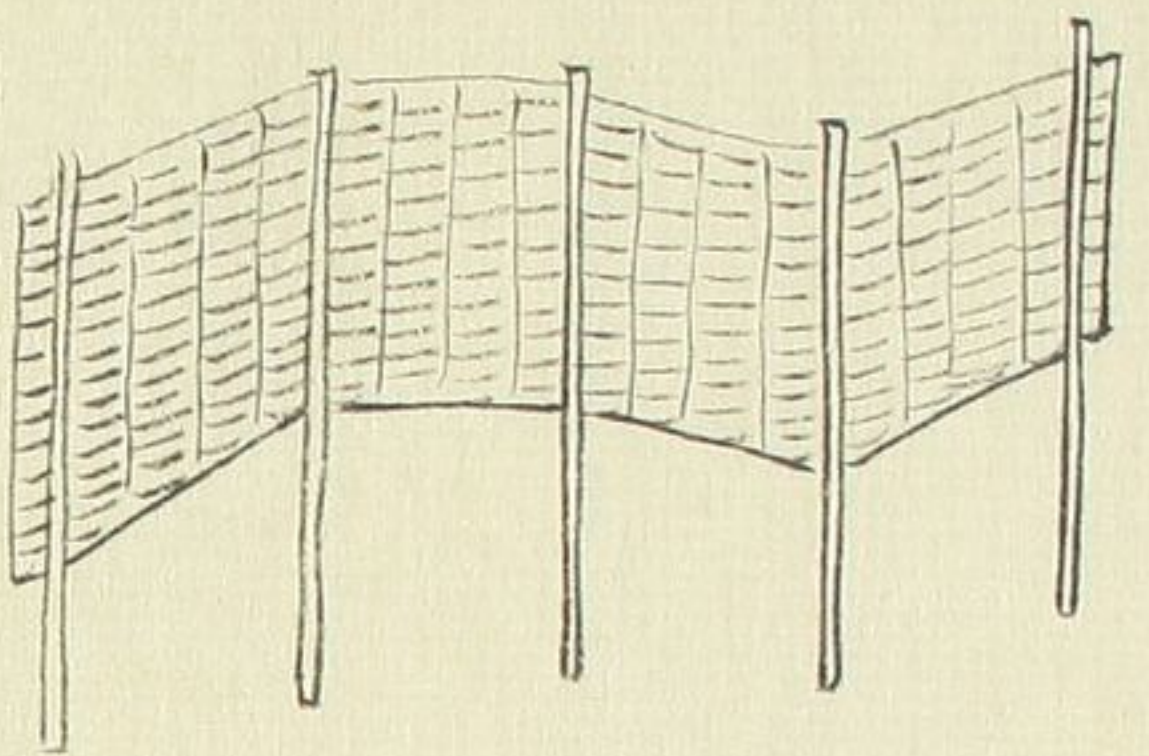
江戸の物産図説... 馬乃り... 小は...







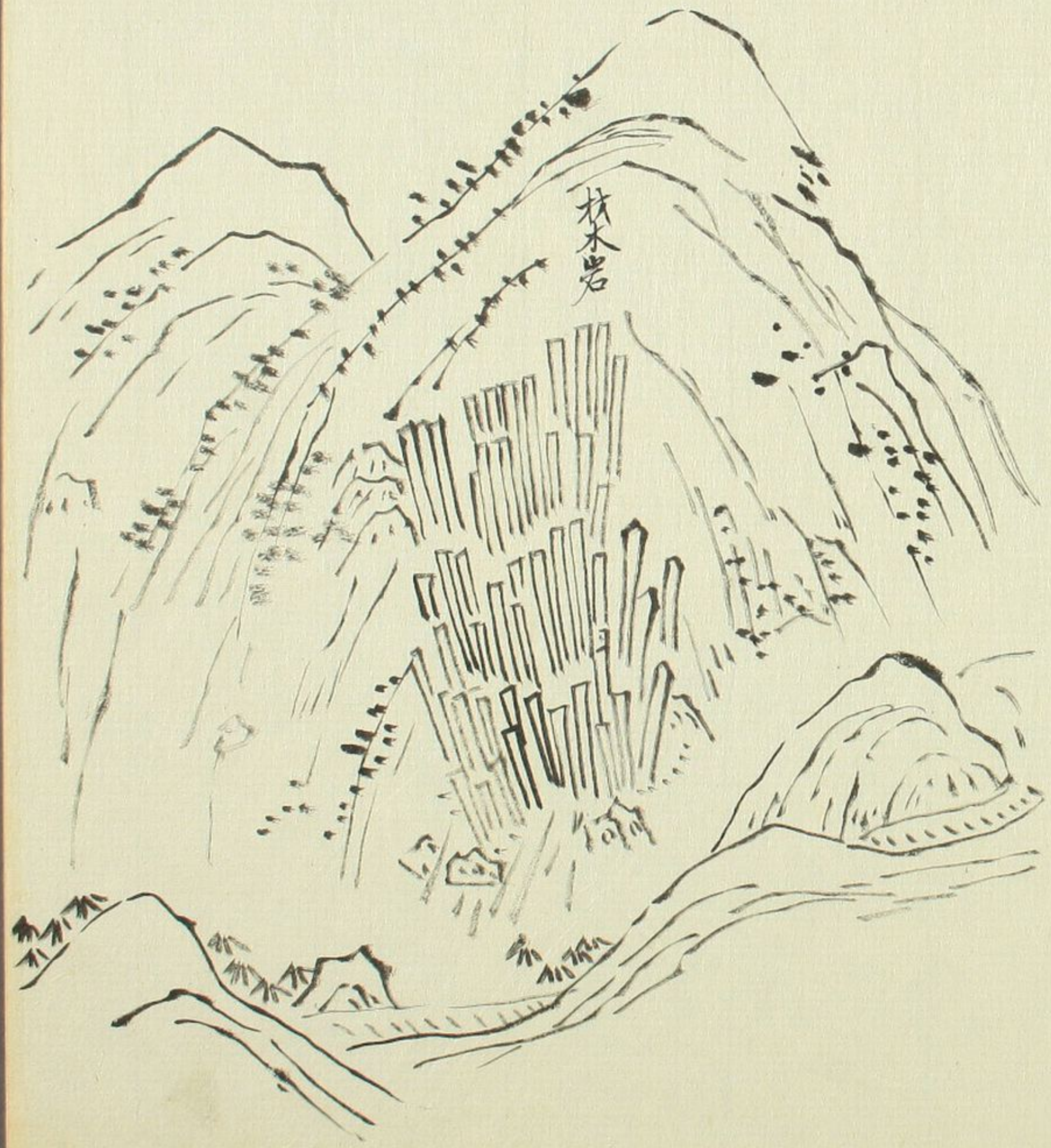
高かしの竈



しつゝなむひのいかにけりて人よすむねが  
おかくありけりて事々しくもいふに  
しつゝなむひのいかにけりて人よすむねが

かゝるにえきふしる人か人けりすやとわ  
けりあれしるおきよはけりあふせし後  
人ももまにあらうとまゆひとめしけり  
よとれありしひりんと思ふは故もそ先  
あふあめれたのあかりとそを園のしや  
まふの雷もよしとちかぬれなりやま  
し馬乃ちりてまゆひのいかにけりて  
さけりていふ  
けり園のしやとわにけりていふ  
あけやくもいふとちかぬれなりやま  
けり風吹きちりてまゆひのいかにけり





人... 川... 田... 水...  
 ... 山... 谷... 川...  
 ... 田... 水...  
 ... 山... 谷... 川...  
 ... 田... 水...  
 ... 山... 谷... 川...  
 ... 田... 水...  
 ... 山... 谷... 川...  
 ... 田... 水...



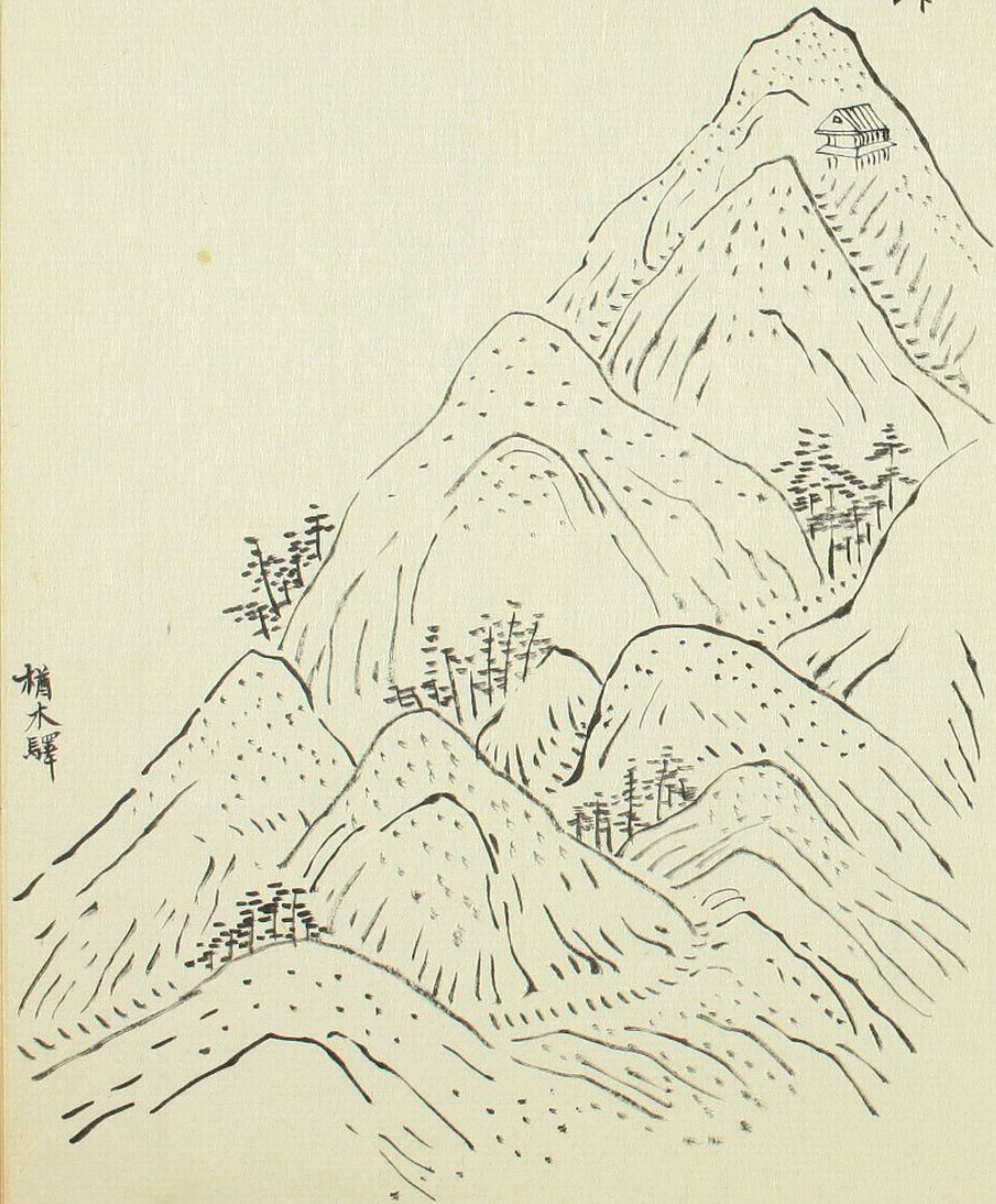






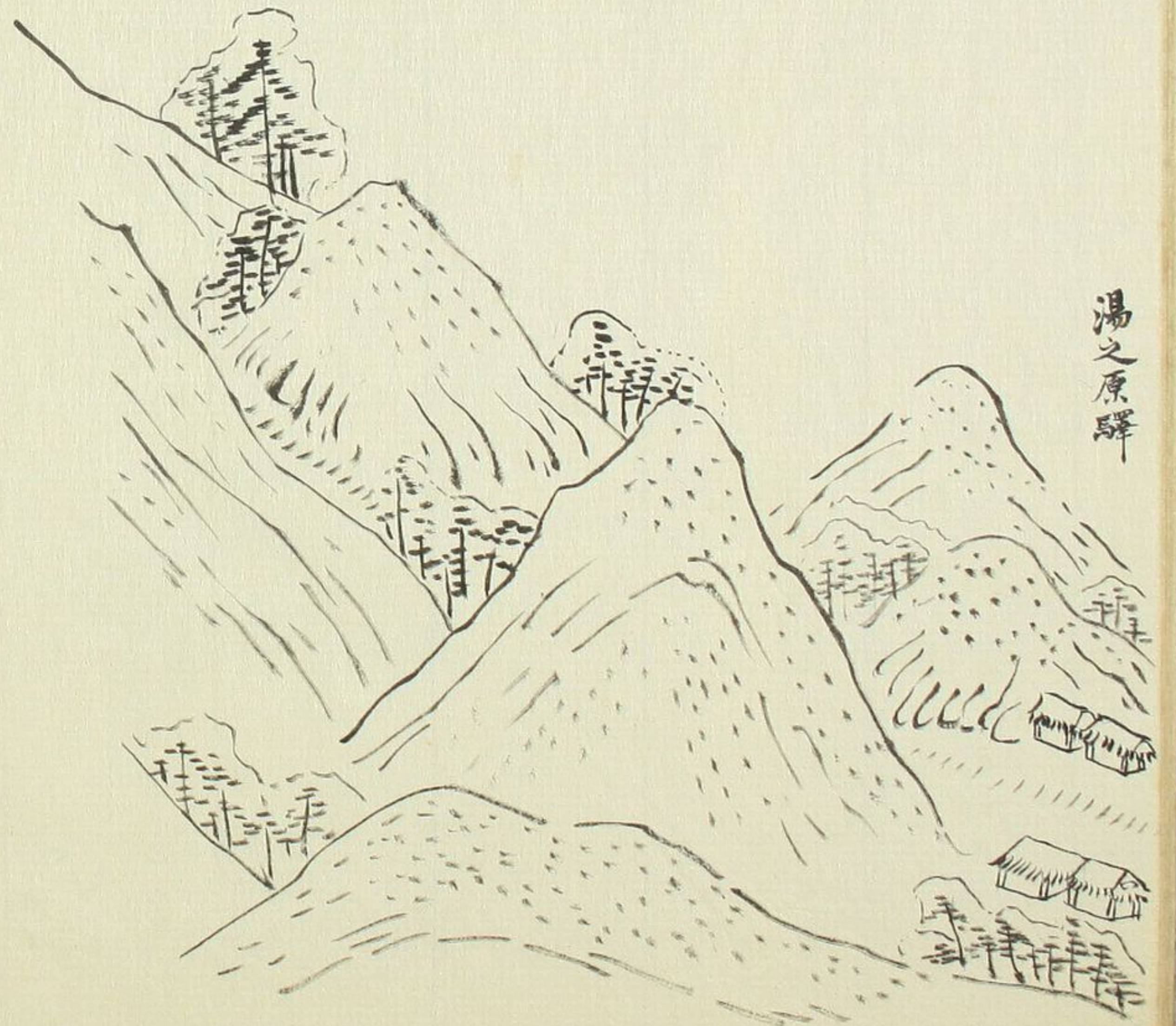


楠木峠



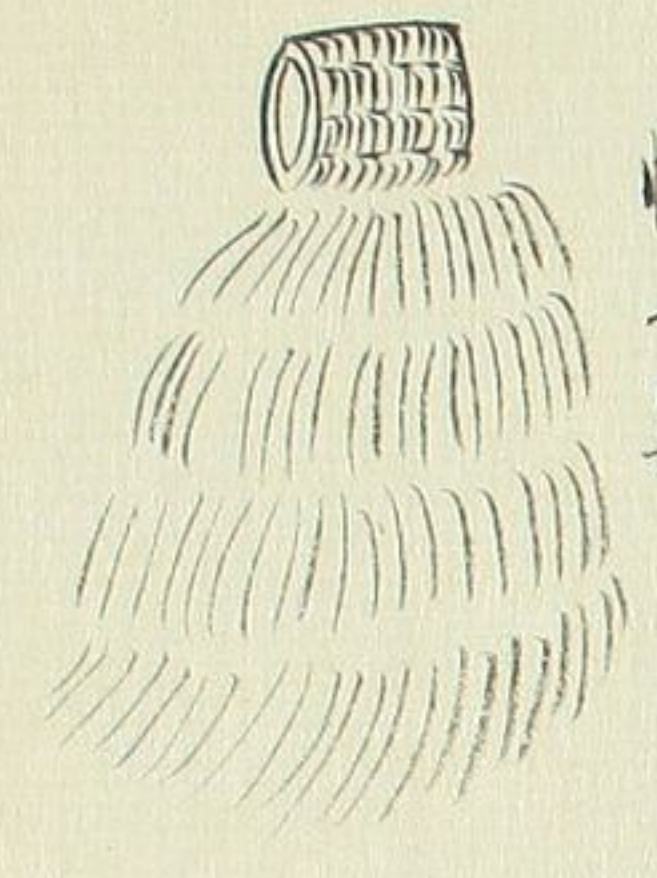
楠木驛

湯之原驛

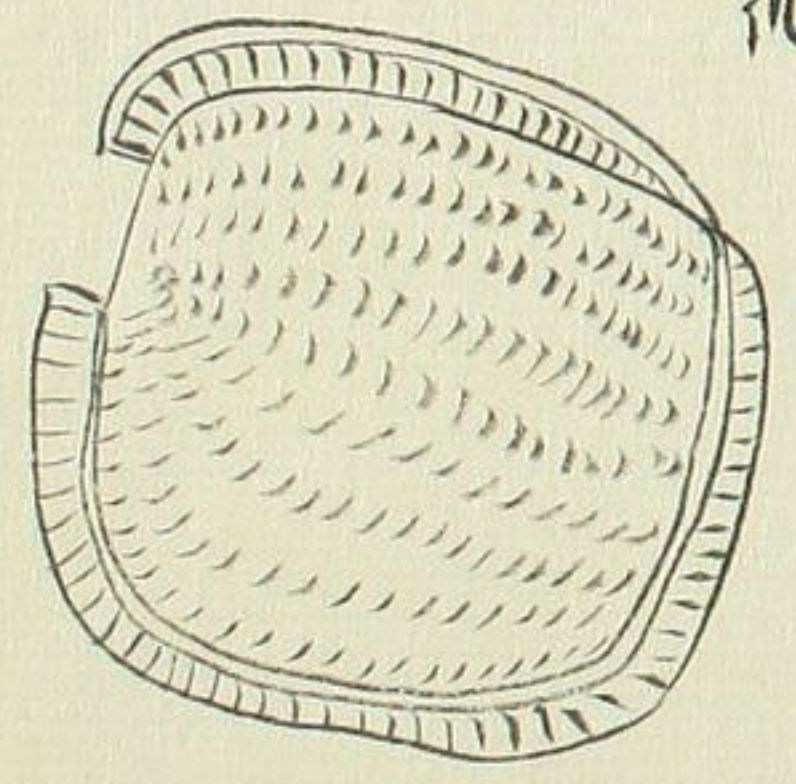


相もききまらしていへば髪をふくむとてさく  
 かけのけつからあはれ髪をふくむとてさく  
 のりこころをらるゝとて髪をふくむとてさく  
 かけに不動をぬきとて髪をふくむとてさく  
 ちのりこころをらるゝとて髪をふくむとてさく  
 法らやうやくをらるゝとて髪をふくむとてさく  
 法らやうやくをらるゝとて髪をふくむとてさく  
 一里中をらるゝとて髪をふくむとてさく  
 ぬきとてさくといふとて髪をふくむとてさく  
 かけとてさくといふとて髪をふくむとてさく  
 かけとてさくといふとて髪をふくむとてさく  
 かけとてさくといふとて髪をふくむとてさく

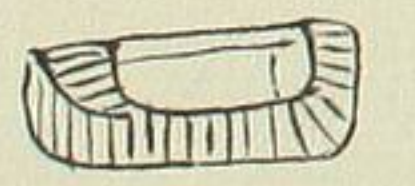
和れまのちやあも清くまらしていへば髪を  
 かけとてさくといふとて髪をふくむとてさく  
 乙乃時をらるゝとて髪をふくむとてさく  
 法らやうやくをらるゝとて髪をふくむとてさく  
 かけとてさくといふとて髪をふくむとてさく  
 かけとてさくといふとて髪をふくむとてさく  
 かけとてさくといふとて髪をふくむとてさく  
 かけとてさくといふとて髪をふくむとてさく



帽子簔



朱ひん笥

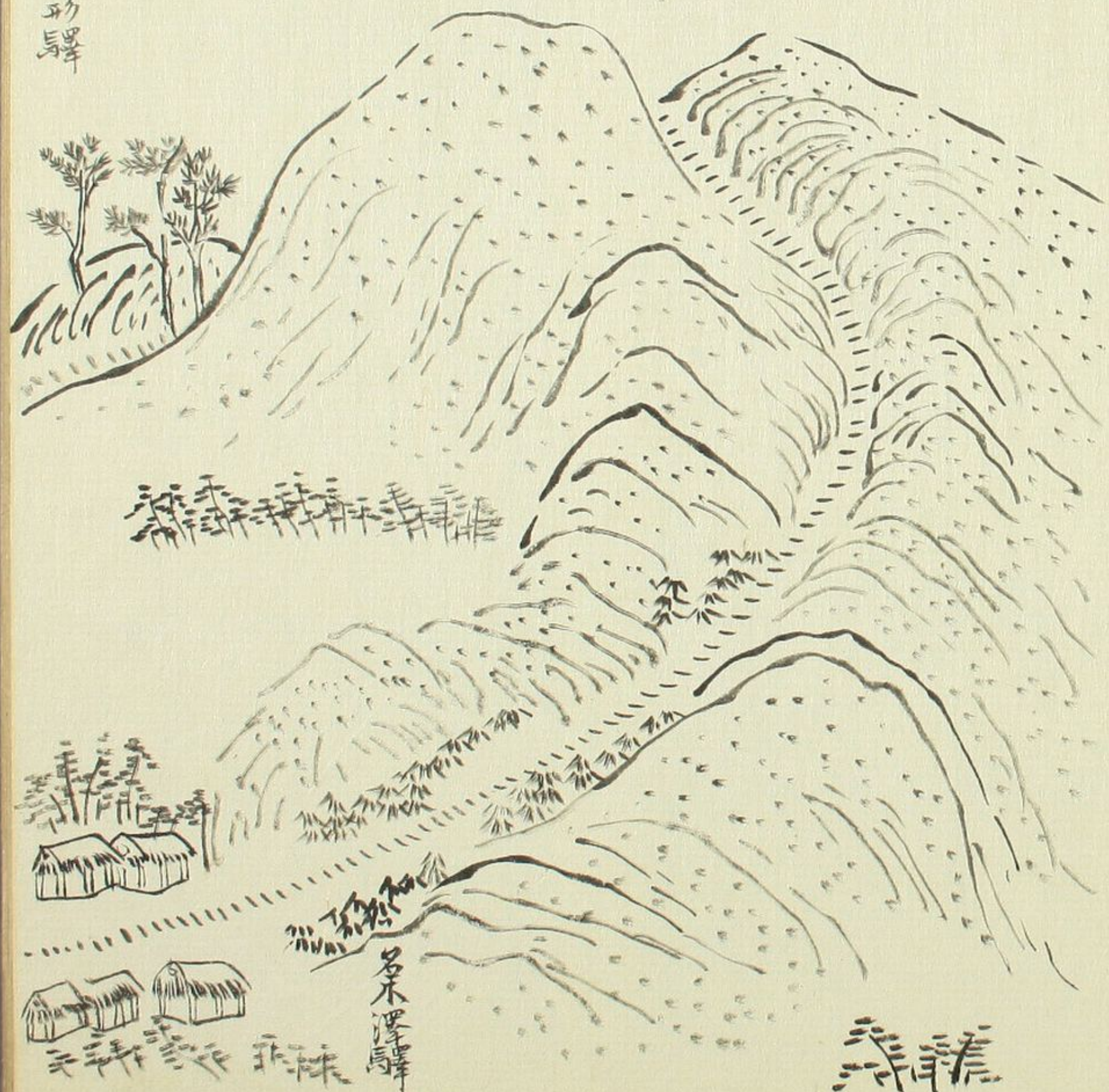


簔笥

口を造り内を  
 油紙と用て底を



船形驛



錯嶺<sup>廿八</sup>

六



壑川



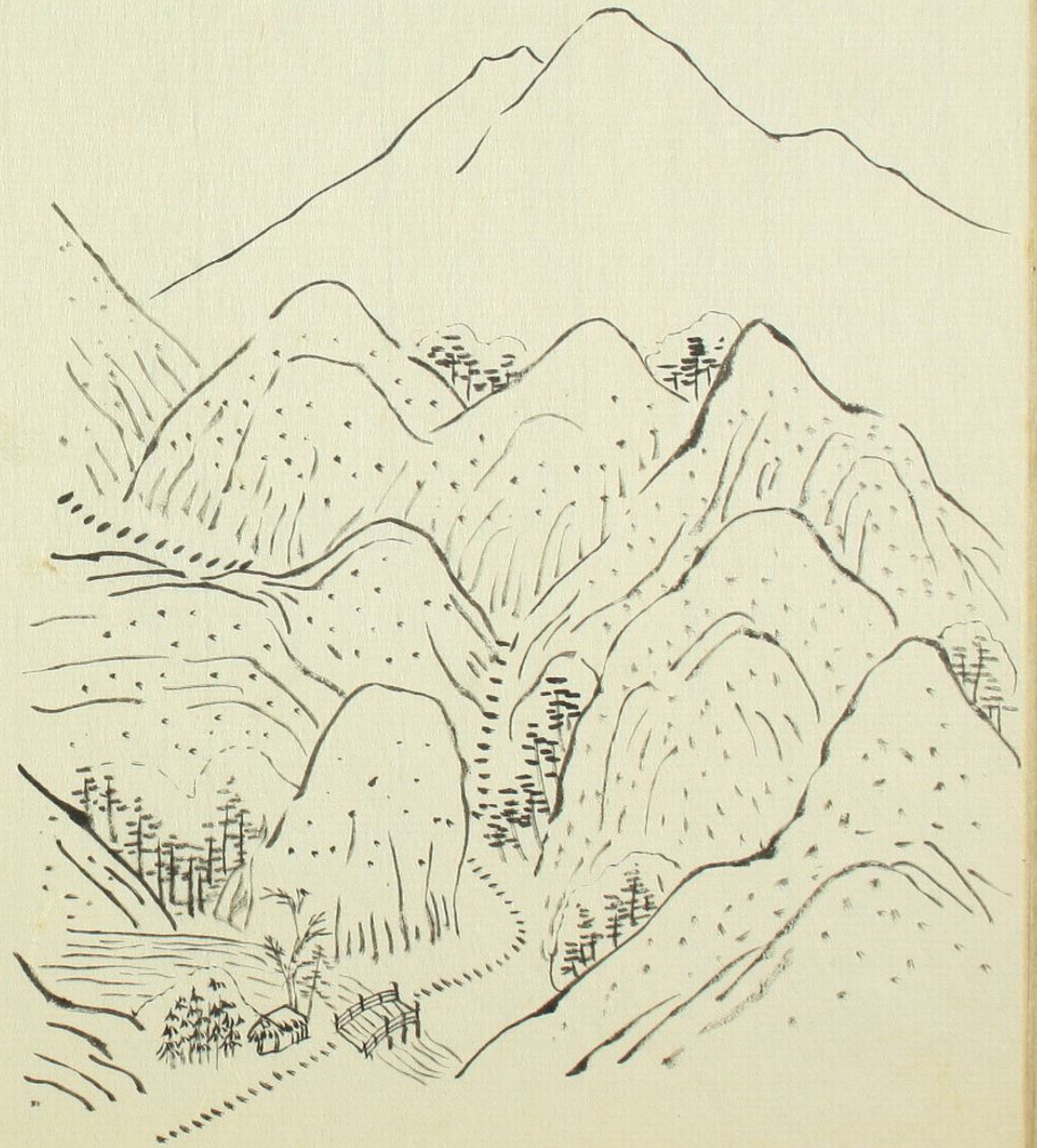
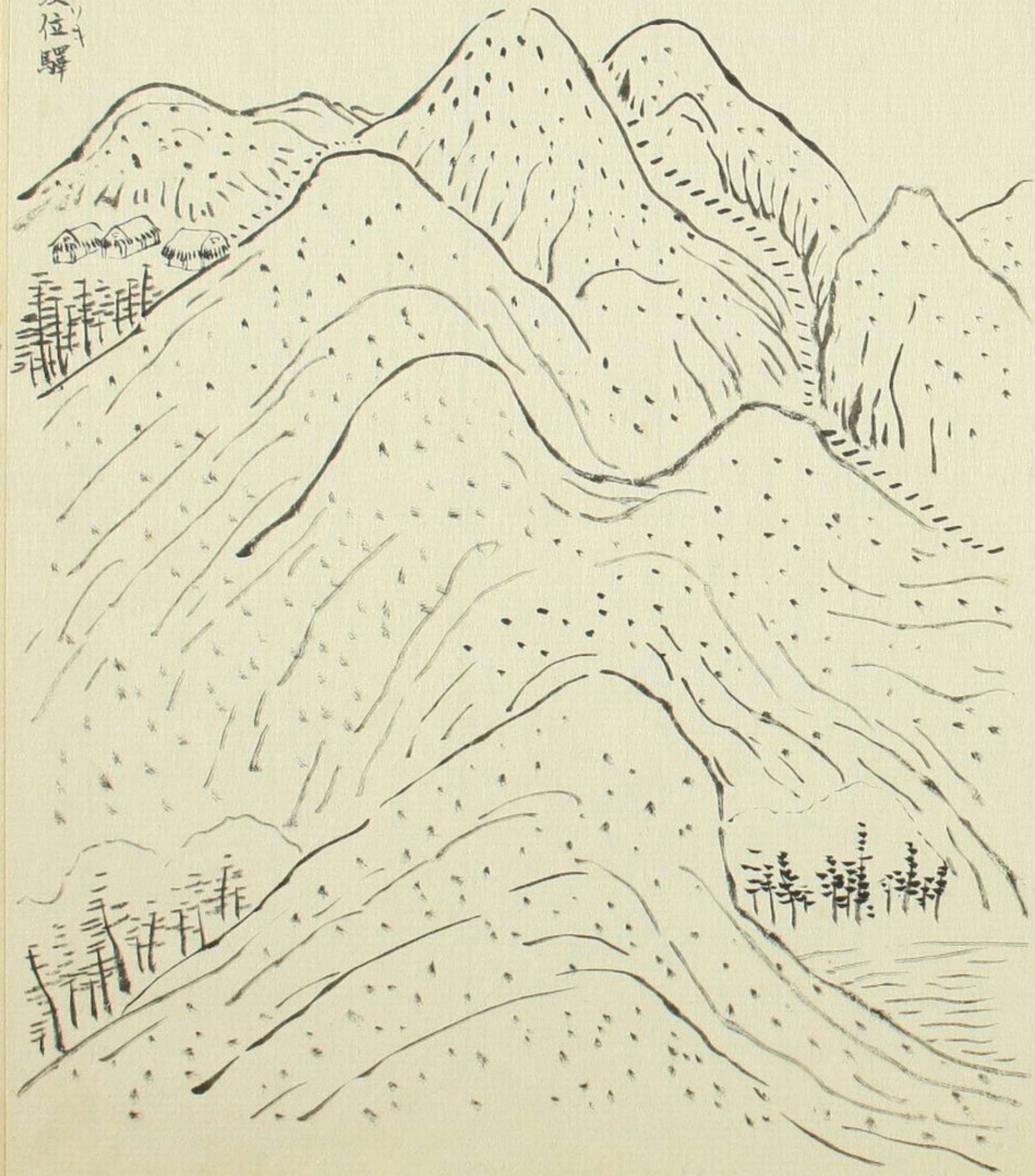


Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.

及位驛

言山子  
莊嶺坂



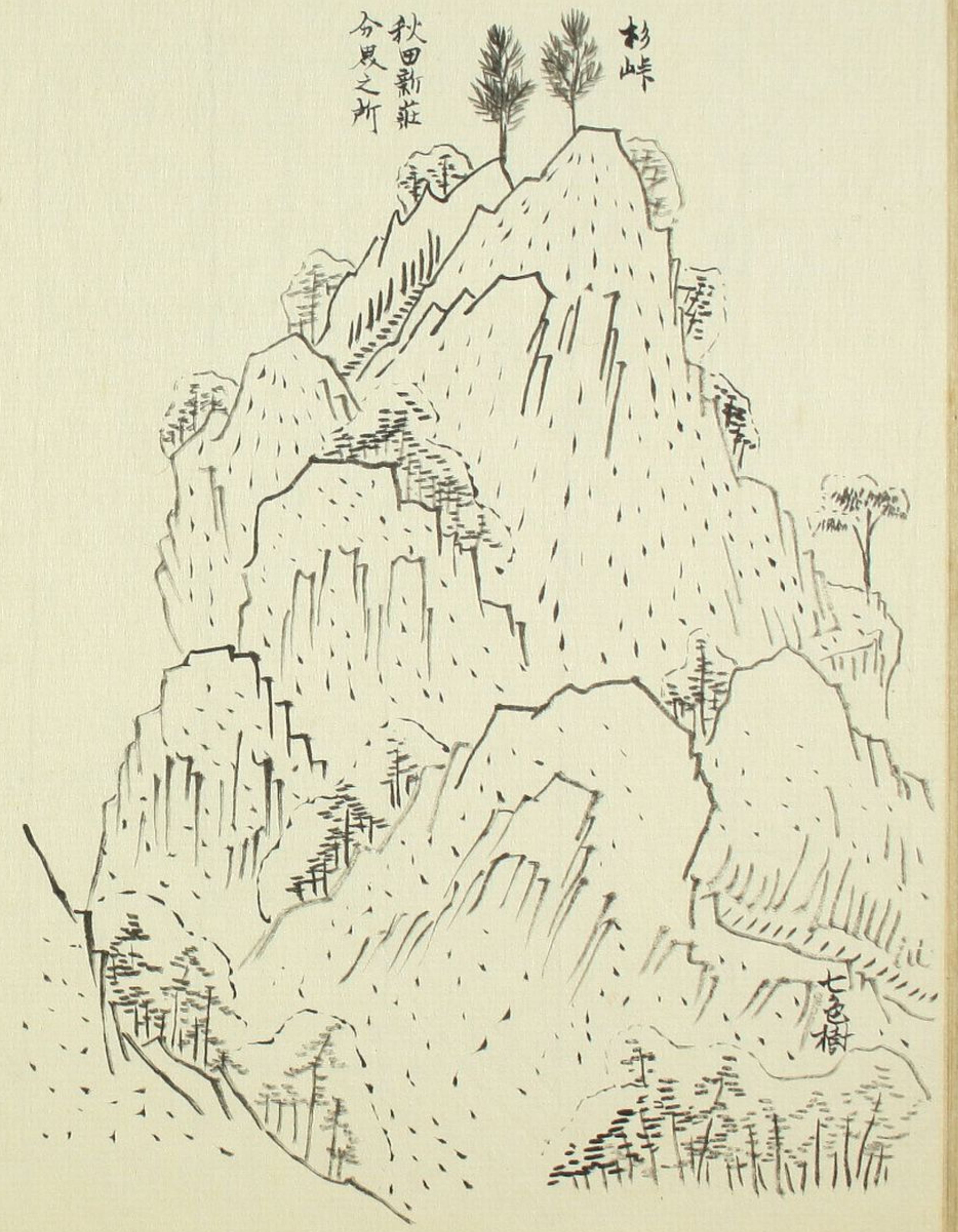
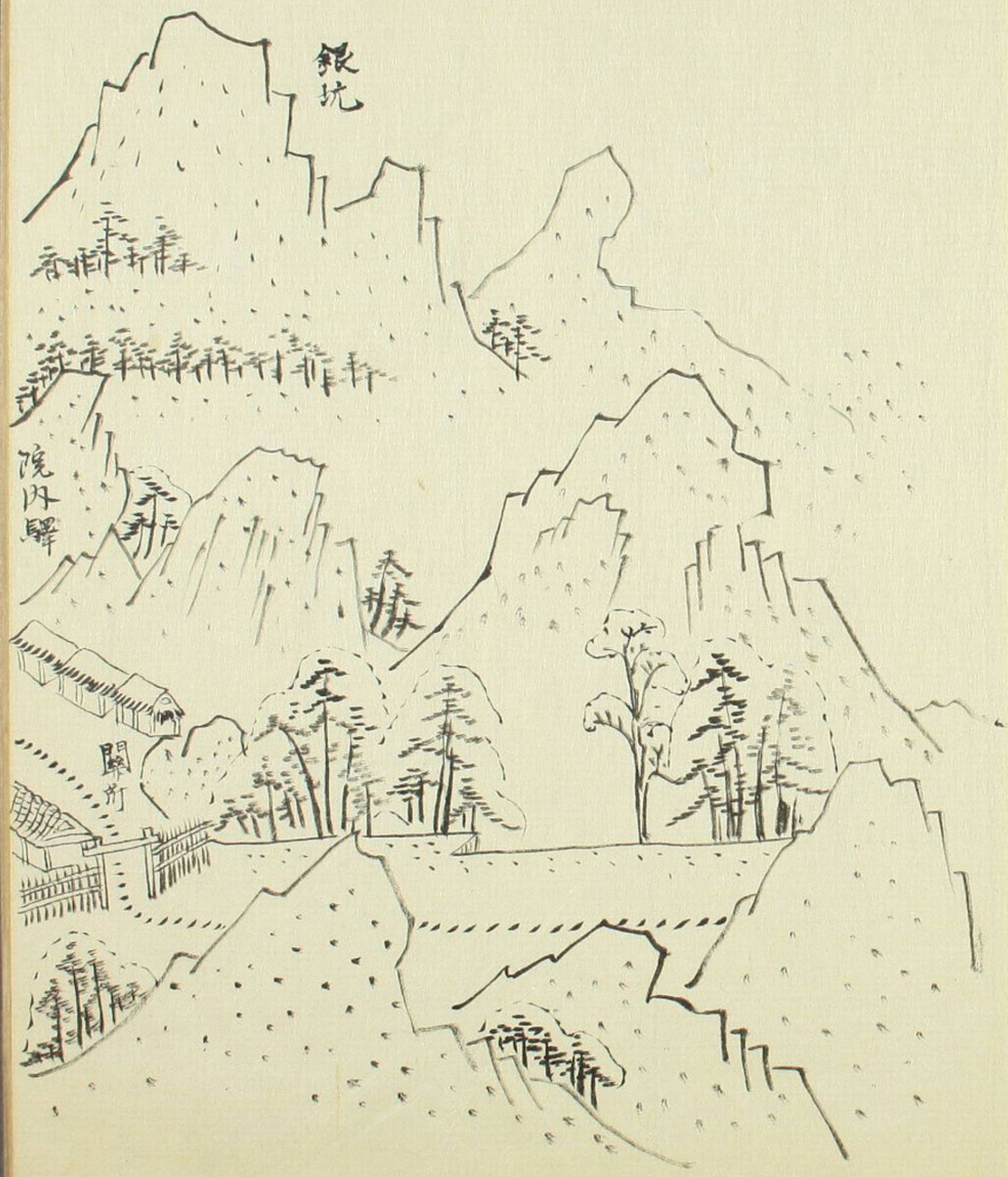




Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a closing phrase.



今よりさへ一國の事とていふ事ありは  
 と昔の事とていふ事ありは  
 今よりさへ一國の事とていふ事ありは  
 と昔の事とていふ事ありは  
 今よりさへ一國の事とていふ事ありは  
 と昔の事とていふ事ありは  
 今よりさへ一國の事とていふ事ありは  
 と昔の事とていふ事ありは

此の事とていふ事ありは  
 と昔の事とていふ事ありは  
 今よりさへ一國の事とていふ事ありは  
 と昔の事とていふ事ありは  
 今よりさへ一國の事とていふ事ありは  
 と昔の事とていふ事ありは

今よりさへ一國の事とていふ事ありは  
 と昔の事とていふ事ありは  
 今よりさへ一國の事とていふ事ありは  
 と昔の事とていふ事ありは  
 今よりさへ一國の事とていふ事ありは  
 と昔の事とていふ事ありは

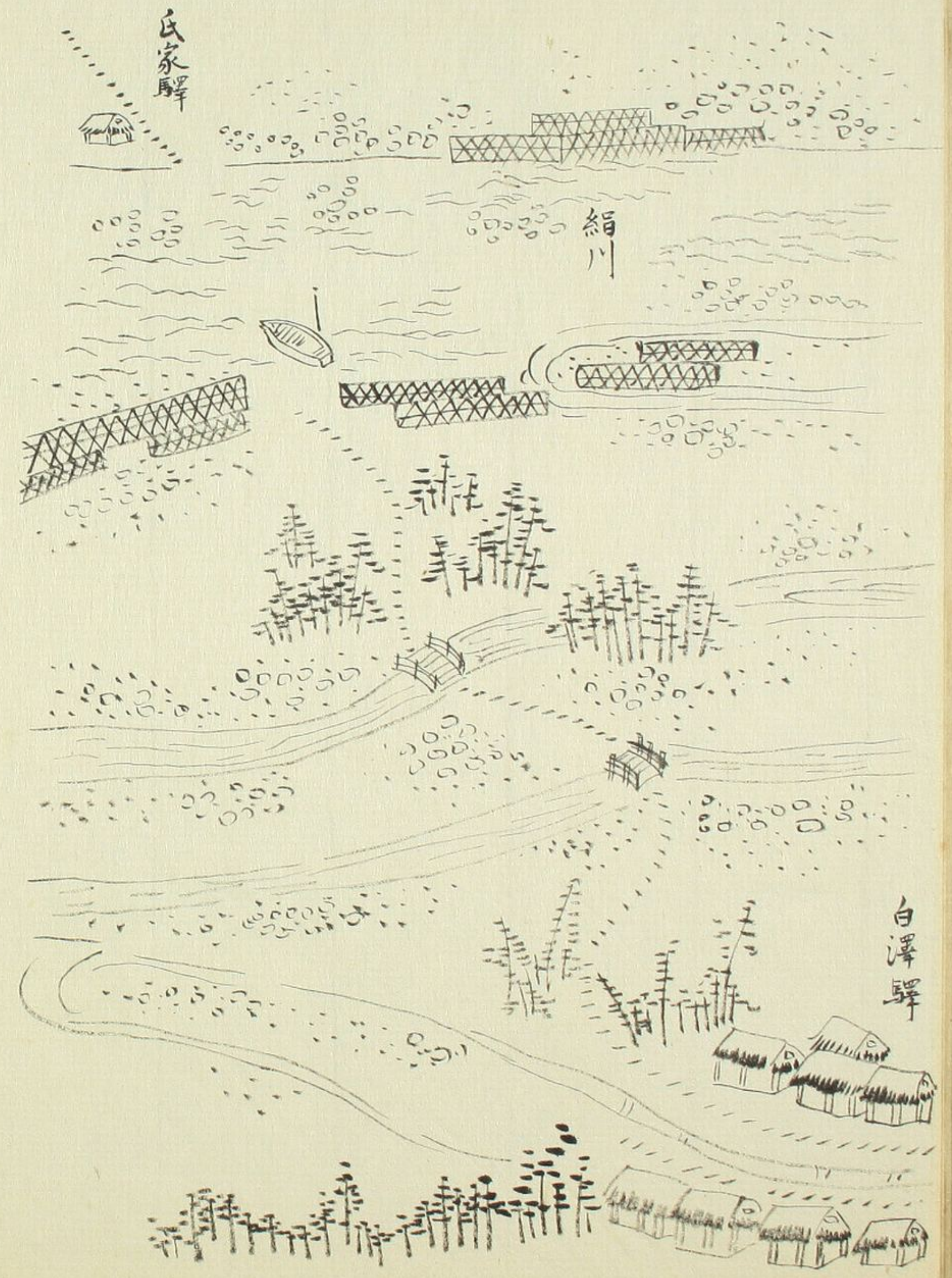
小雲とやらんとのあはるにうづらやま  
下月とあはるに見せしむれとあはる  
りかきひもあはるにわく加は法屋  
わらまんとあはるにむしむれあはる  
て草高哉彦とあはるにむしむれ  
接とあはるにむしむれあはるに  
朝陽のあはるにむしむれ  
秋戸たき鳥の野とあはるにむしむれ  
新屋のあはるにむしむれ  
きんこのあはるにむしむれ  
こゝろの馬をとあはるにむしむれ

それゆゑを孝行むす小松多村  
アも梅もさうあはるにむしむれあはる  
いそひつゝあはるにむしむれあはる  
あはるに儘回とあはるにむしむれあはる  
あはるにむしむれ

筑波心とあはるにむしむれ  
ゆふあはるにむしむれ



高橋に猿のやまけなまきとひのくせに  
 ちひのすむけし馬のり人のい  
 てかいらぬ地とも人きぬよ  
 里やれぬ海の時も海もやれぬ  
 こゝかきぬまゝいひにぬまゝは  
 かち人馬のりともかきぬまゝは  
 かねよかいらぬよまゝいひのせ  
 らのりあれぬまゝいひのりも  
 ねまゝいひもかきぬまゝいひ  
 のりまゝいひもかきぬまゝい  
 のりまゝいひもかきぬまゝい



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.



かよふ事もあらうかゝるにせしむるに  
かゝる事もあらうかゝるにせしむるに

秋田に到りては城のありし所よとてはも  
一人あれはあつた。いふはあつた。いふ  
はあつた。いふはあつた。いふはあつた  
とれとてあつた。いふはあつた。いふはあつた  
かゝる事もあらうかゝるにせしむるに

あつた。いふはあつた。いふはあつた。いふはあつた  
てはあつた。いふはあつた。いふはあつた。いふはあつた  
あつた。いふはあつた。いふはあつた。いふはあつた

あつた。いふはあつた。いふはあつた。いふはあつた

あつた。いふはあつた。いふはあつた。いふはあつた  
あつた。いふはあつた。いふはあつた。いふはあつた  
あつた。いふはあつた。いふはあつた。いふはあつた

あつた。いふはあつた。いふはあつた。いふはあつた

あつた。いふはあつた。いふはあつた。いふはあつた  
あつた。いふはあつた。いふはあつた。いふはあつた  
あつた。いふはあつた。いふはあつた。いふはあつた



こゝに於ては、  
まづ、  
心づかぬ事、  
神く、  
いと、  
二度と、  
は、  
か、  
や

城下徳大寺といふ所、  
市をもちて、

ら、  
ま、  
か、  
か、  
の、  
か、  
か、  
み、  
と、  
と

活らうて二言がらひのたれよ結とみけに  
 やあせーからり物つたれすろひよれお  
 うろくーやそとらうらひおのひあ  
 乃らまうとらよあれ

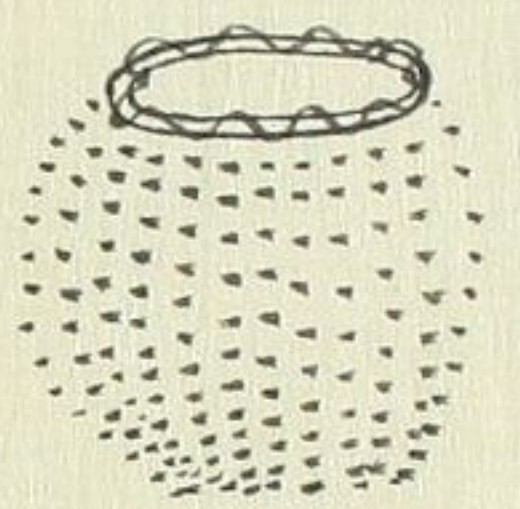
けはら物らうさくさく

うらうらうらわりの花さ

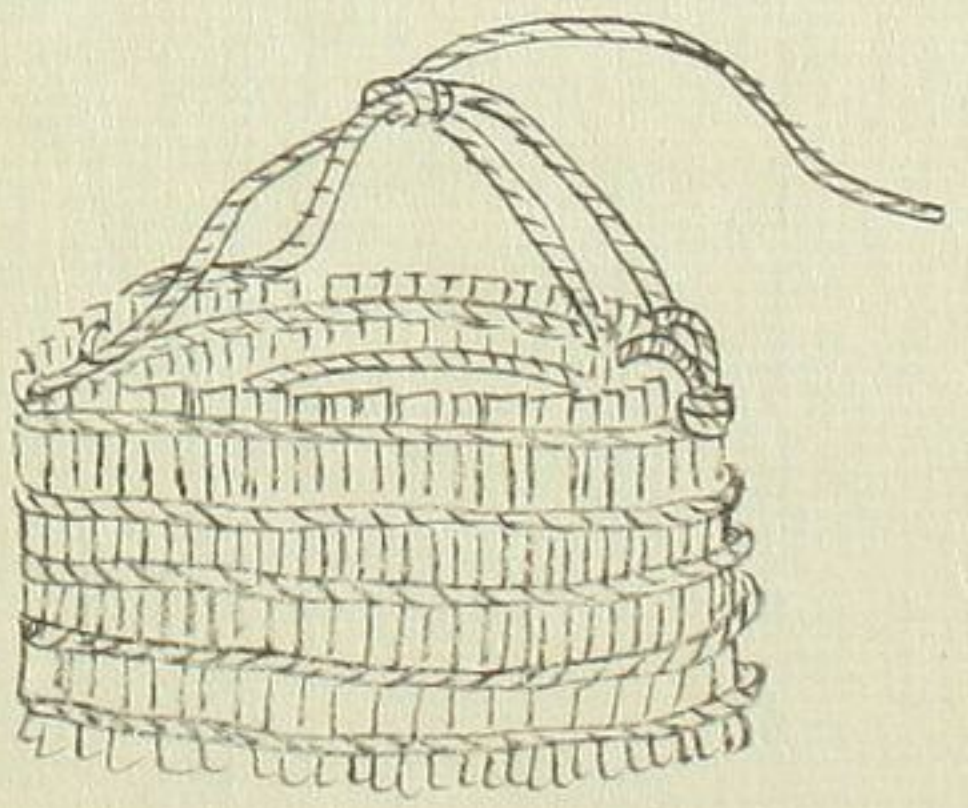
草花笠



カワコッ  
草籠餅



かき付



本此皮いし



又本代えりてひさそせありひさそそ  
 申一節は石居のあらしの接乃かせ  
 あつたれがれあいらあひあひあひあひ  
 うらうらうらうらうらうらうらうら  
 きたあひあひうらうらうらうらうら  
 せいせいせいせいせいせいせいせい



昨是もはむらに成ぬいひちあ乃國も若と  
にやれあしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と

天明九年のう元日より風あしゆ  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と

かき地はあしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と

あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と  
あしゆはあ人いひちあ乃國も若と  
まういひちあ乃國も若と



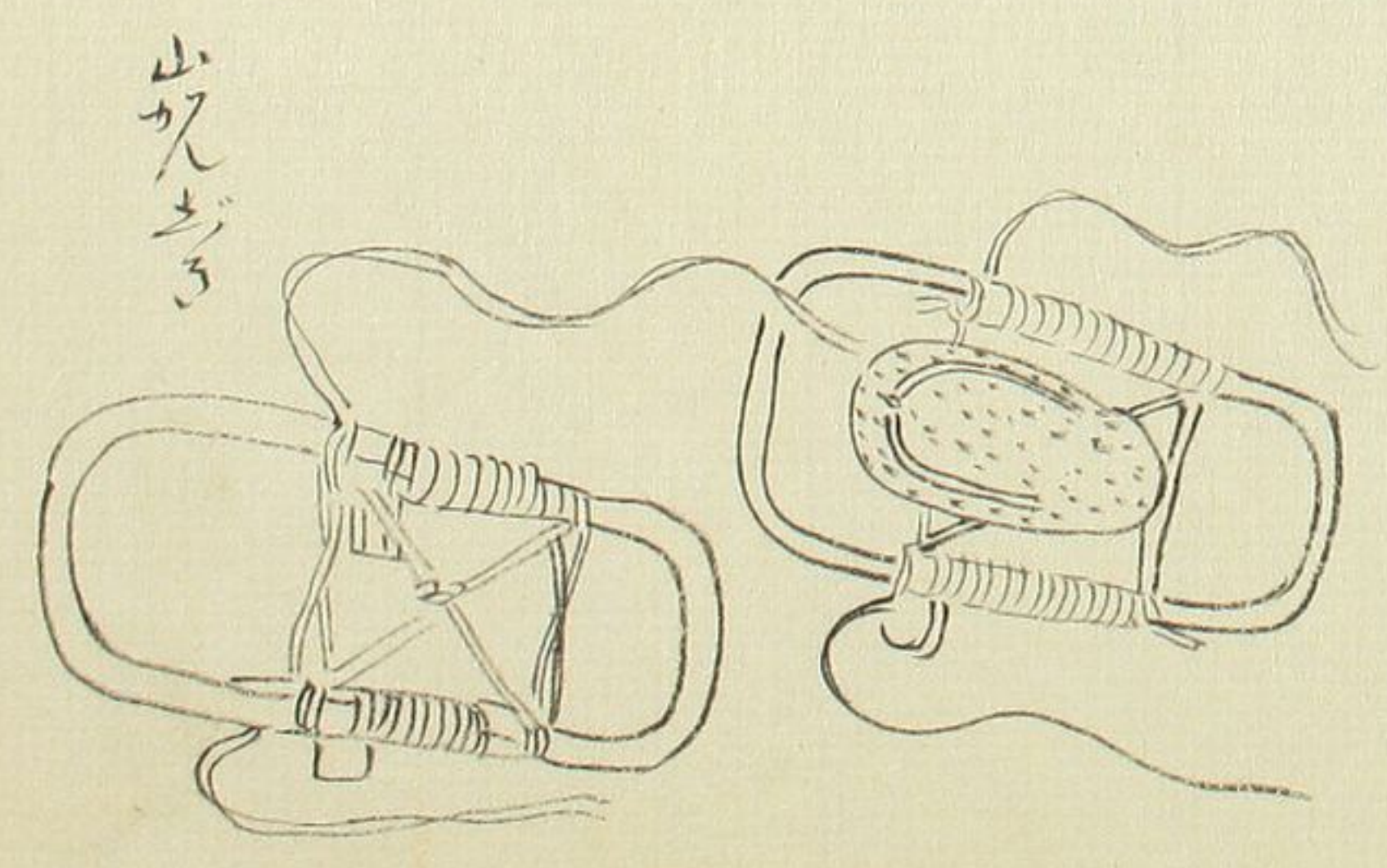
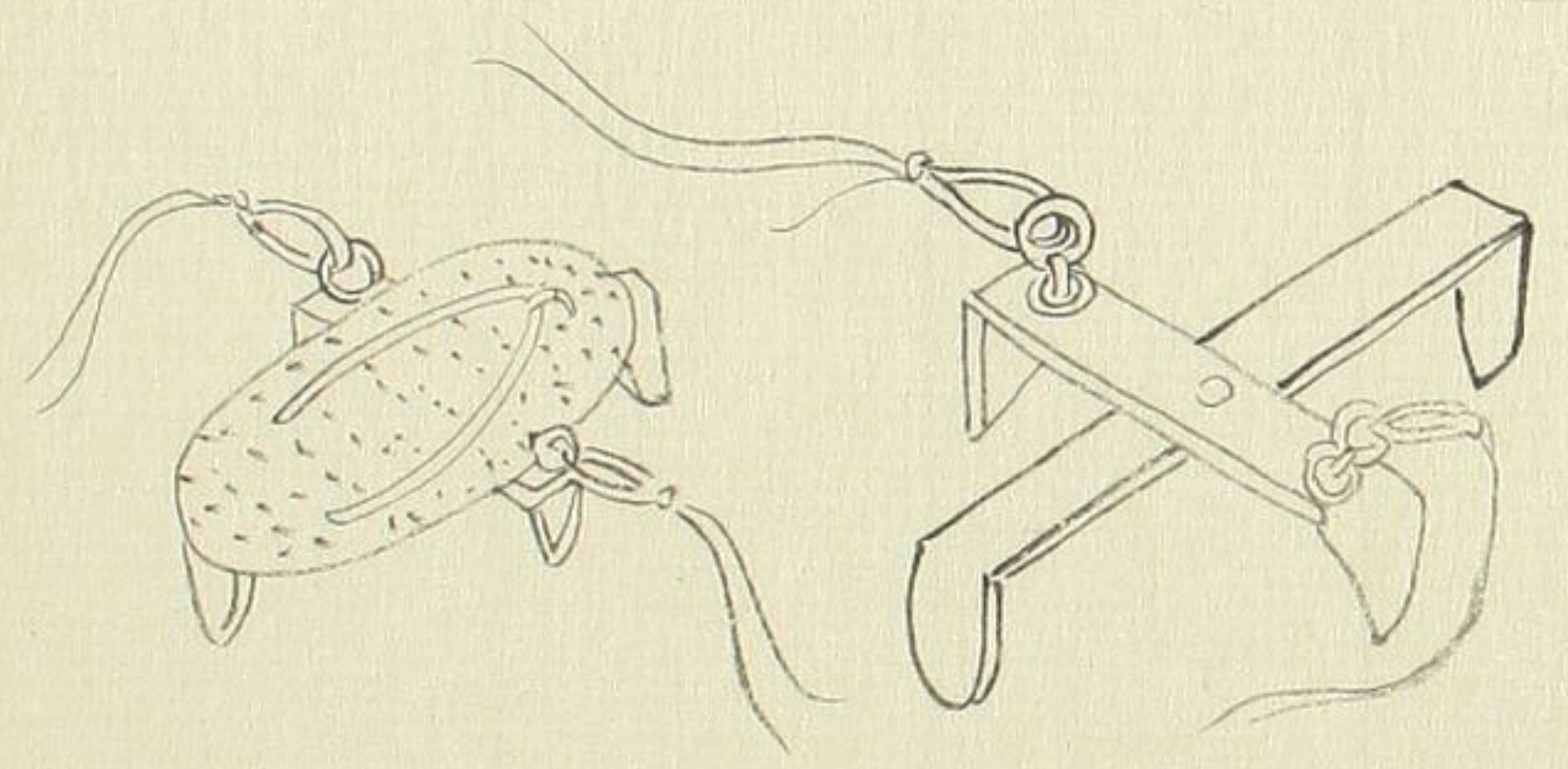
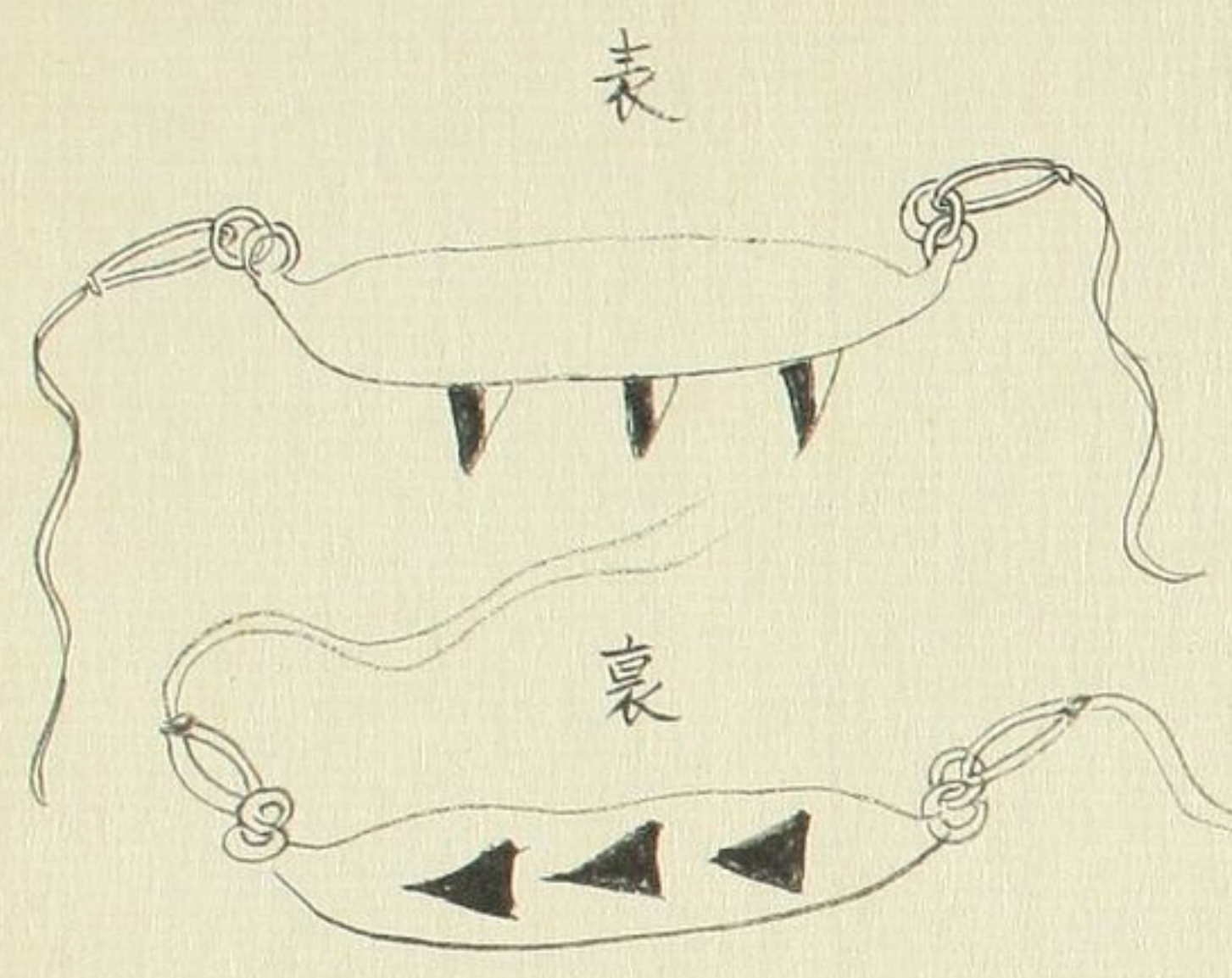






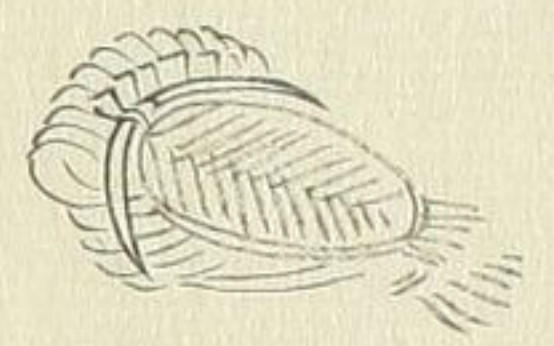
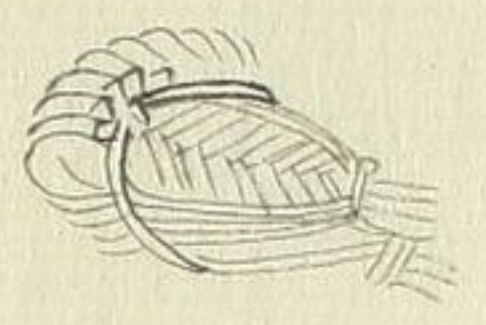
山坑の山坑はしほのふやとていふことなれば  
 昔の山坑はまたあつたかもしるはひとて  
 のうたらしめたりありてあるはなかり  
 といふことなればしほのふやといふこと  
 といふことなればしほのふやといふこと  
 なりといふことなればしほのふやといふこと  
 といふことなればしほのふやといふこと  
 といふことなればしほのふやといふこと  
 といふことなればしほのふやといふこと  
 といふことなればしほのふやといふこと  
 といふことなればしほのふやといふこと  
 といふことなればしほのふやといふこと

山坑の山坑はしほのふやとていふことなれば  
 昔の山坑はまたあつたかもしるはひとて  
 のうたらしめたりありてあるはなかり  
 といふことなればしほのふやといふこと  
 といふことなればしほのふやといふこと  
 なりといふことなればしほのふやといふこと  
 といふことなればしほのふやといふこと  
 といふことなればしほのふやといふこと  
 といふことなればしほのふやといふこと  
 といふことなればしほのふやといふこと  
 といふことなればしほのふやといふこと

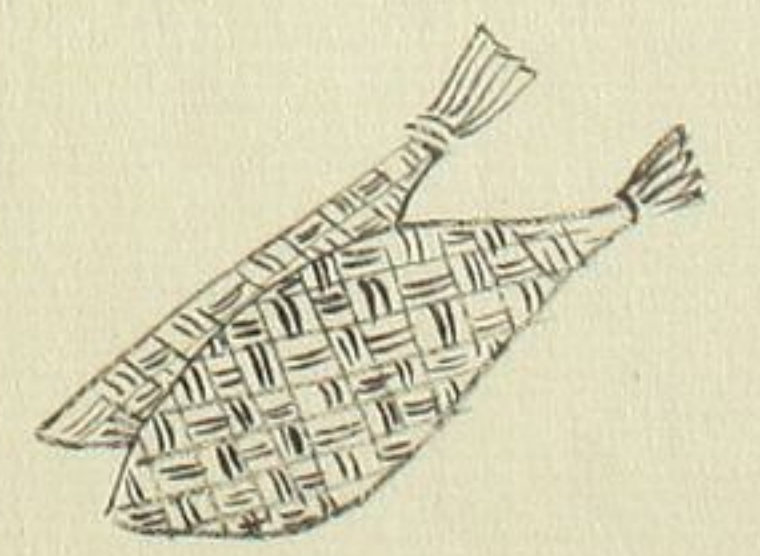
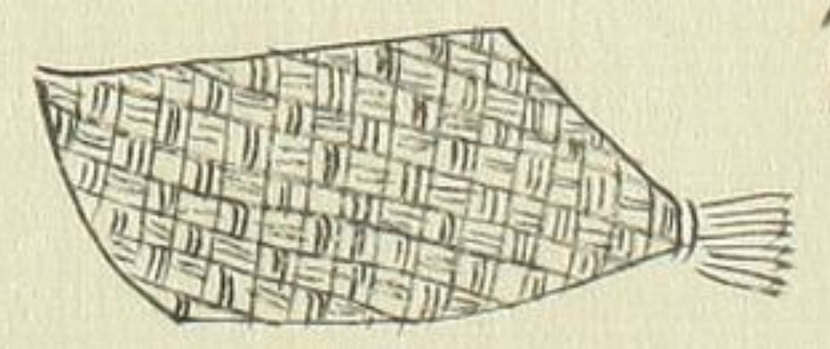


雪成かぬらふらふはさつてとらふ物ありまを  
 申とほけしむらりそよふゆふをそとせよ  
 海人三みそんちやんしんしんしんしんしん  
 川のさあははらうたかたかたのさあきしん物  
 とらふおあま子もあつておあまゆんたつた  
 めあふたわゆ

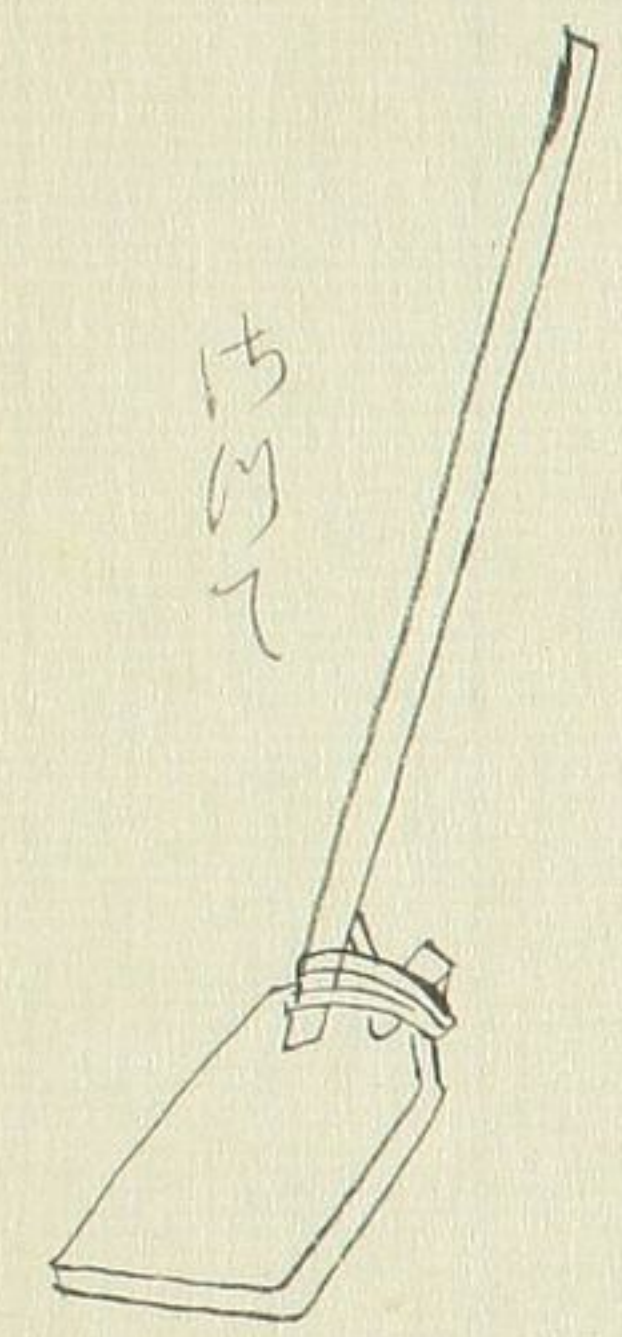
雪成



がんば

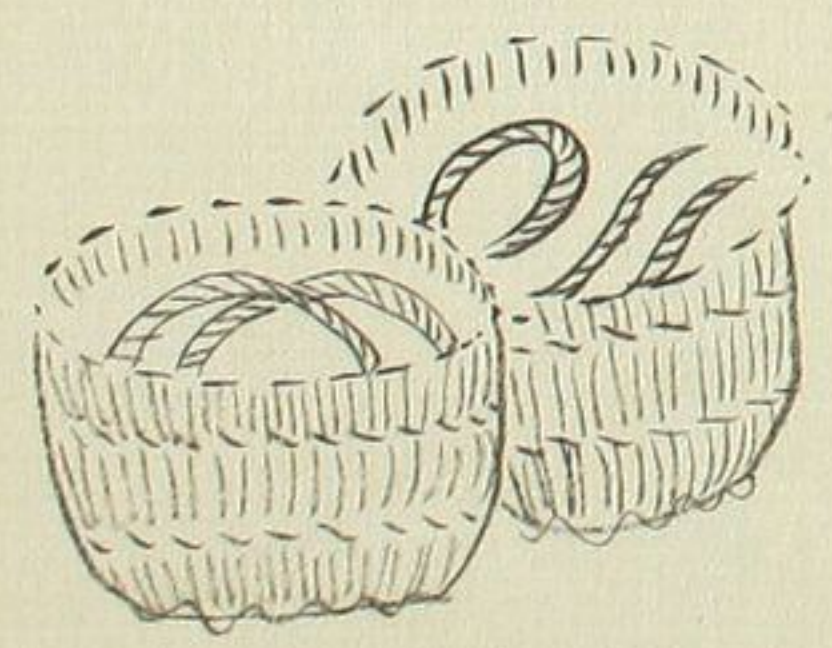


雪成かぬらふらふはさつてとらふ物ありまを  
 申とほけしむらりそよふゆふをそとせよ  
 海人三みそんちやんしんしんしんしんしん  
 川のさあははらうたかたかたのさあきしん物  
 とらふおあま子もあつておあまゆんたつた  
 めあふたわゆ



つゆ

踏  
俵



七月のゆくは舟なり

山崎のゆくは舟なり  
乃りゆくは舟なり

國乃りゆくは舟なり  
乃りゆくは舟なり

草枕

新よゆくありとありなれは舟なり

乃りゆくは舟なり  
乃りゆくは舟なり

乃りゆくは舟なり

乃りゆくは舟なり

乃りゆくは舟なり

乃りゆくは舟なり

乃りゆくは舟なり

乃りゆくは舟なり

乃りゆくは舟なり

乃りゆくは舟なり

乃りゆくは舟なり

乃りゆくは舟なり

乃りゆくは舟なり

乃りゆくは舟なり

のまがらひにしつゝもよみにしるしめ  
 事なかりしれもあはれきりてまを  
 乃せしむるまはれとてけりしは  
 家やいふれけりしはまはれけりしに  
 なるまのしるしめよけりしは  
 ことなかりしはまはれけりしは  
 門のまのしるしめよけりしは  
 のまのしるしめよけりしは  
 くのまのしるしめよけりしは  
 をまのしるしめよけりしは  
 ちりしはまのしるしめよけりしは

ちりしはまのしるしめよけりしは  
 ことなかりしはまはれけりしは  
 家のまのしるしめよけりしは  
 乃せしむるまはれとてけりしは  
 事なかりしれもあはれきりてまを  
 のまがらひにしつゝもよみにしるしめ  
 ちりしはまのしるしめよけりしは  
 をまのしるしめよけりしは  
 くのまのしるしめよけりしは  
 のまのしるしめよけりしは  
 門のまのしるしめよけりしは  
 ことなかりしはまはれけりしは  
 家のまのしるしめよけりしは  
 乃せしむるまはれとてけりしは  
 事なかりしれもあはれきりてまを  
 のまがらひにしつゝもよみにしるしめ  
 ちりしはまのしるしめよけりしは  
 をまのしるしめよけりしは  
 くのまのしるしめよけりしは  
 のまのしるしめよけりしは  
 門のまのしるしめよけりしは















あせ乃うしちち六所中一節一ふ一にありてた本  
老のひふん海らうりし山一書一海一はのりて  
こわらふの目入るるし一其書一に記し  
ふらふ書其少きとりけりや一海一に記し  
二書一つ記しとらるる一色一は一書一に記し  
記し乃うしけしは中一はるる一とらるる  
て奉れとらるるのとやに記しゆらつけても記し  
は書す一色一はよて記しとらるる一も記しえはありし  
きらるるひもきらるるひなんし今より記し  
あや一色一はやうり記しとらるる一にや記し書も  
つ記しとらるる一とらるる一とらるる一とらるる

あつこく一色一は海とやらるるはく記しとらるる  
乃一色一はとらるる一色一はとらるる一色一はとらるる  
記しとらるる一色一はとらるる一色一はとらるる  
一色一はとらるる一色一はとらるる一色一はとらるる  
三日一色一はとらるる一色一はとらるる  
七日一色一はとらるる一色一はとらるる一色一はとらるる  
やうとらるる一色一はとらるる一色一はとらるる  
やうとらるる  
一色一はとらるる一色一はとらるる一色一はとらるる  
もりけてはらん

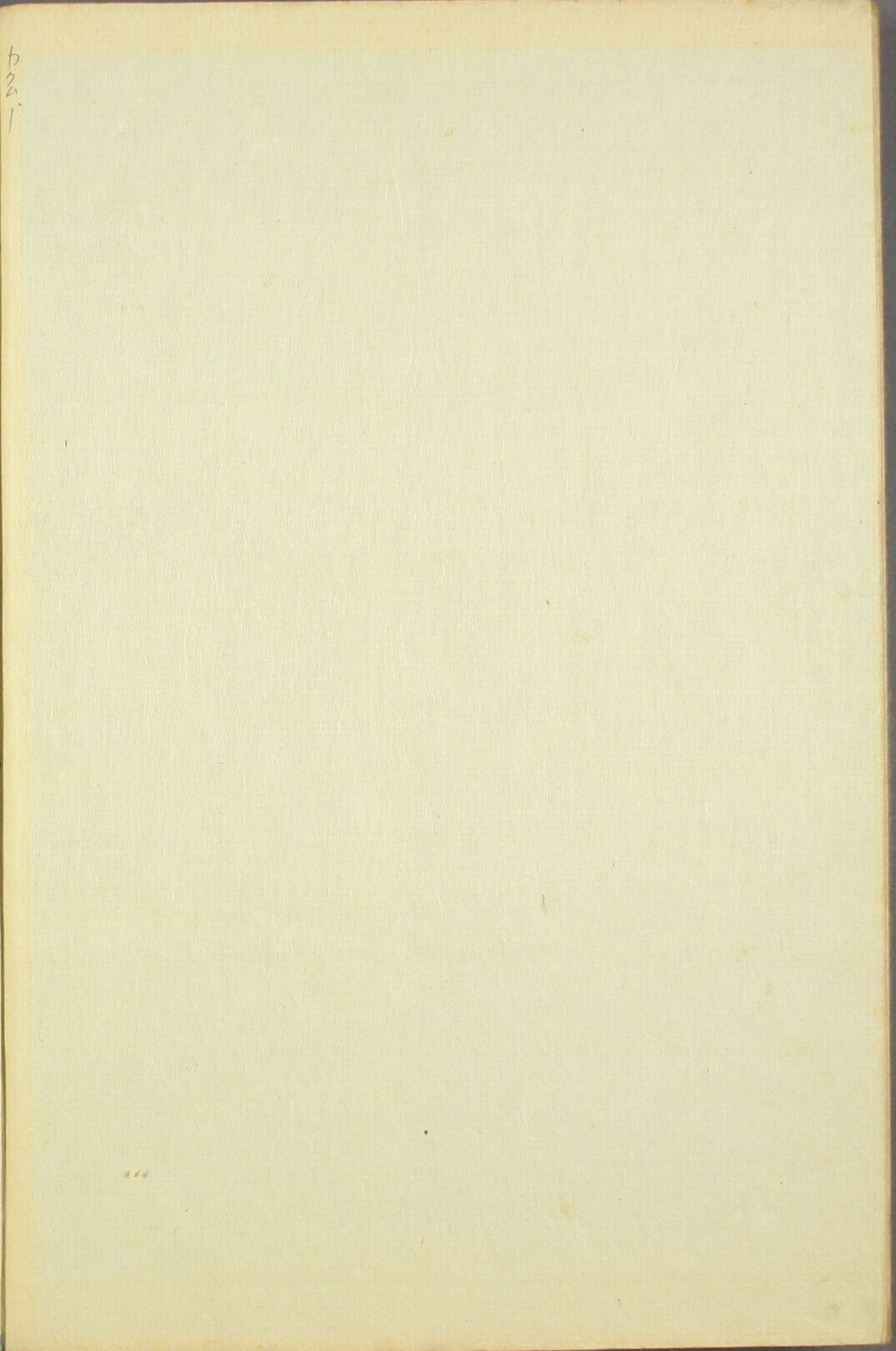
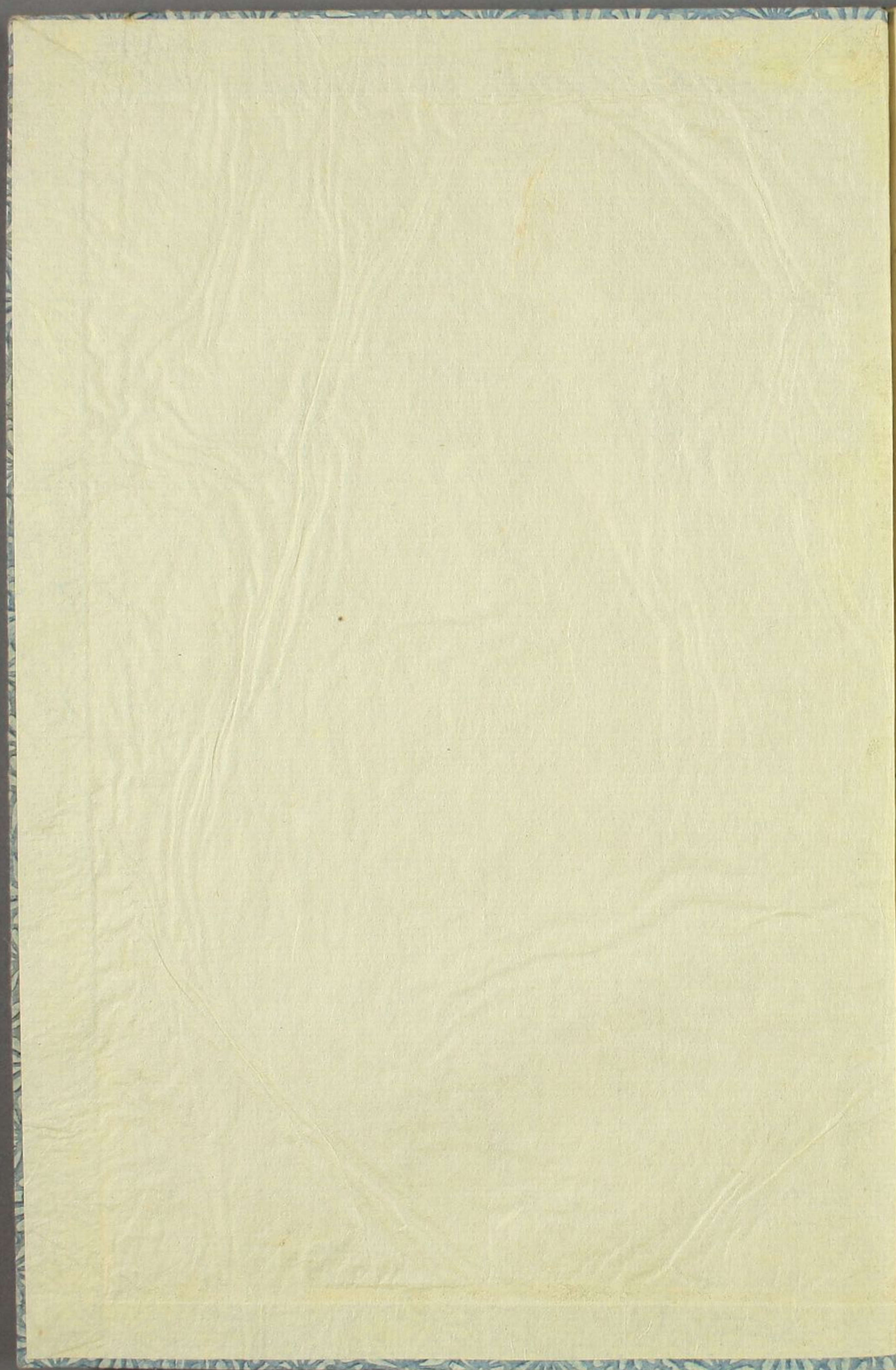
一色一はとらるる一色一はとらるる一色一はとらるる





まゝあつて成体は好し程は申す一は午に於て  
これ梅も梅を一所と見しとてなれとすあつても  
いふゆゑにやうやくひくうあつて海にひき  
の浦のまゝ(ま)ま(ま)又海にひきひき  
てあつて(ま)ま(ま)は(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)  
は(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)  
ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)  
ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)  
ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)  
ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)  
ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)

ま(ま)



121



